

◎友人・知人各位

昨年父が92歳で大往生。11月も半ばを過ぎて「大往生とは言っても年賀状出してはいけないのよ」とカミさんに言われる。しかし、ありきたりの欠礼の挨拶状を出すのもつまらない。それならアマダイ通信と兼ねればコストパフォーマンスもいいと、1週間ほど、夜毎酔濁した頭を冷気で冷やしながらワープロを叩き、師走の頭によく発送。いつもより誤植が多いと反省しながらも、どうにか間に合ったと胸をなでる。

ところが、元旦に目をさますといつもより少ないものの年賀状がどっさり。「せっせと書き送っているけど誰も読んでくれてないのよ」とカミさんにからかわれ、心中穏やかならざるものあり。だが目を通して行くと「通信をありがとう」と書き添えてある賀状が何通も。ひとまず安心。聞くと身内に不幸があっても賀状を出すのはまずいが、いただく分には構わないのだとか。

そこで来年の賀状は紅白の縁取りに年賀と大書したピンクの封筒を千枚ほど読え、アマダイ通信に着せてみようかと思ったりする。そして表に連番を刻み、抽選の上、当選者には田舎の漁協特製の甘鯛の一夜干しをプレゼントすれば、お年玉つき年賀状になる。賀状を葉書に限ることはない。もっとも今度こそ誰にも読んでいただけないかも知れないが。

眉間に皺寄せ頭を抱えるような問題の多い昨今ですが、物は考え様。空冷式のキャパの小さい頭脳に勉強と思考の機会を、なまった体に行動のチャンスまで天が与えてくれているのかも知れません。地球大のクロスワードパズルを解く気分で?!面白真面目に書き送りたいと思います。今年も宜しくお願い致します。

◎鮫は刺身で食べられる？

思いの外沢山来てしまった賀状に目を通した翌日、思い立って秋田に飛ぶ。4年に1回の高校の同期会が2日にあり、3日は中学の同期生と能代で飲む。いつも能代で飲むと八森の生家か東能代の長兄宅までタクシーを走らせるのだが、今回は能代の大原旅館に宿を取り、朝食後五能線で生家まで通い、夕方又飲みにも能代まで出る。能代から八森の、又その北外れの岩館の生家まで30kmほど、タクシー代よりホテル代がずっと安い。それに飲み屋からホテルまで道でも行ける。心おきなく2次回、3次回と梯子する。

鞆には現代のマルクス? P・クルーグマンの「資本主義経済の幻想」と佐藤章の「金融破綻」を忍ばせる。暖炉の暖かみを背中に受け居間の開口の大きな掃出しの窓を通してしんと降る雪を眺めながら読む。タイミングよく義姉がお茶を入れてくれる。この静けさ、この開放感。音もなく落ちてくる白いものが目に入ってきて頭の中まで満たされるような気がする。せせこましく、慌ただしい都会にはない田舎の良さをしみじみと味わう。

2泊した帰り際、「こまち」の発車まで時間があつたので、12月に挨拶に伺いお世話になった上野JR東日本秋田支社長に年始の挨拶に寄り、秋田白神駅のホテルについて再度お話を聞かせていただく。計画は生きていて、春から秋の集客の目途はつくのだが冬場の集客の見通しが立たないので実行に踏み切れないようだ。しかし、目の前で獲れたばかりの美味しい旬の魚や白神の山で採れた山の幸に舌鼓を打ち、波の花飛ぶ日本海を眺めながら温泉につかり、大きな静けさの中で書を紐解く。それに忘れてはいけない美味しい地酒の白瀑がある。これで十分だと思うのは私だけだろうか。

猿の食害に困った町が、宿舎を提供して猿追いをしてくれるボランティアを募ったところ、どうせ応募者はいないだろうとの予想を裏切り、東京から夫婦者がアゴ、足自分持ちで駆け付け、楽しかったのでまた来たいと言って帰ったと話題になっていたが、余所で暮らしたことがないとその良さがわからないのである。鮫というと大概の人はふか齧のスープ、精々すり身くらいしか思い浮かばないが、獲れたての鮫の刺身はなかなか乙なもの。鮫は小さく切って湯がき、おろし大根と一緒に三杯酢で食べるもよし、味噌漬けにして焼いて食べるのもいい。卵胎生なので黄身しかない卵も美味しい。それに齧や頭などの軟骨を蒸して固めた鮫のベッコーは絶品である。時間をおくと鮫はアンモニャが出てすぐ臭くなり食べられたものではない。都会では絶対味わえない美味しさだ。都会の人間はタラコというと明太子しか思い出せないが、元々すり身用の魚であるスケトウダラの子は加工しなければ食えないほどまずいのである。鰯と言えどお腹を膨らませ、口から舌を出し、目を飛び出させて深海から上がってくる一抱えもある真鰯である。身も卵も白子も代用食品のスケトウダラの比ではない。ハタハタに鮫鱈もフグもある。数え上げたら切りがない。元々獲れたての鮫を食べるなどという特権を行使したことの無い都会の人間は、田舎の人間が声を大にして言わなければ冬場の日本海の魚を味わってみようなどと思いはしない。

そんな不幸な人間に鮫の刺身や鮫のベッコーを食べさせてやる努力をすることで、冬場の集客も可能になる。JRにお願いするだけではなく、自分達も知恵を絞る、そのためには田舎の良さを自分達が先ず認識することである。“鮫なんか、田舎ではこんなものしか食べられない”ではなく、“ここでしか食べられない鮫を食べる幸せ”へと発想を転換することから始めなければいけないのではないだろうか。

◎日本をどうする！団塊ネット新春大討論会

一見小康状態の金融危機ですが、期末を越えるとどうなるのか。日本は政治と行政、経済の構造改革を果たしてハッピーな高齢化社会を迎えることができるのか。1月21日に新年会を兼ね、会員の朝日新聞の早野編集委員をコーディネーターに団塊世代の論客を迎え、本年第一弾の討論会が憲政記念館で行われました。仙谷議員にはこの後入会していただきました。

●自自連立について

早野透（朝日新聞編集委員、「ポリチカにっぽん」連載）：自自連立は何のためですか。

坂井隆憲（衆議院議員、自民党財政部会長、大蔵省出身、会員）：自社さは違う流れの勢力が組んだ禁じ手での合従連衡。それと比べると自自連立は驚きが少ない。党首が暴走する時に自由党がチェックする。

早野：違いが小さいということ、刺激剤になるということですね。

仙谷由人（衆議院議員、民主党企画委員長、弁護士）：何かうさんくさい。歴史的に例えると公武合体だ。アメリカ一辺倒へのフラストレーションをなだめるもので、日本人にモラルハザードをもたらす。何をやってもいいということになる。わが党の中にもないわけではないが。

早野：自自連立を組んでも参議院で過半数に届かない。公明・改革が協力するか否か、が鍵になる。そういう立場で自自連立をどう評価しますか。

西川友雄（衆議院議員、改革クラブ政審会長、建設省を経て弁護士、会員）：「金融国会がスピードに欠けたので自自連立を組んでスピードを上げよう」というのが小淵総

理の発想だが、選挙の洗礼を受けていないと私も所属した小沢党首の新進党は自社さに反対したのだから、基本的には私は自自連立に反対の立場です。

●大型補正と財政赤字

早野：宮沢蔵相が1回から大魔神を登板させるようなものだという大型補正予算が成立しましたが、これで景気が回復するでしょうか。

坂井：自自連立は確かにスッキリはしない。大型補正で国内の需要は回復するだろう、アメリカ、中国がどうなるか等の問題はあるが。この10年間“政治改革”と言って他のことをやらずに来た。構造的な問題を考えて行かないと日本の中長期的な発展はない。

仙谷：予算に占める公債比率が31%になった。いつまでこんなことをやって行けるのか。民間投資はGDPの10%を割るのではないか。財政投資で経済を底上げする社会主義的手法だ。金利が1%アップすれば5兆円利息が増える。この3月期は自動車がトヨタ、本田以外は赤字決算、電機も黒字は松下、ソニーだけ。鉄鋼は新日鐵1社だけか。構造変革の時期なのに財投で変革を先延ばしするだけだ。基幹産業が法人税を払わない時代に入って来た。別のことを考えなければならない。

西川：バブル崩壊後80～100兆円の公共投資をしたのに現在の状態だ。構造改革しないと変わらない。都市に投資する必要があるのにそれができないのは選挙に問題があるからだ。それに税の規制があって新しい金融商品が日本に入ってくる。

●ガイドラインについて

早野：ガイドラインの問題はどうか。自衛隊がアメリカの支援のために日本以外に出て行くことになります。日米安保の周辺事態と後方支援は戦争の最中に外に出ていくことです。

坂井：国際情勢の中でガイドラインを通して行く必要がある。今は国連軍はないので参加の限界を変えることはできないと個人的には思っている。

仙谷：民主党はまだ最終的態度を決めていないが、周辺事態のあいまいさが問題だ。地域を限定しない周辺事態はおかしい。しかもかって侵略して友好関係を築いていない地域だ。果たしてアメリカの利益が全て日本の利益になるのか。イラクへの攻撃ではアメリカは腰が引けている。陸上戦ができない。周辺事態の範囲を変えるのであれば法律を改正しなければならない。後方支援にはその都度国会の承認が必要だ。日本の主体性を確立し、自立する必要がある。

西川：アメリカのイラク攻撃中止決定の日に国連に行ったが、国連決議を考える時に国連は誰のためにあるか考える必要がある。アメリカは国連はアメリカのためにあると思っている。少なくとも後方支援には国会の事後承認は必要だ。

●少子高齢化社会への対応

早野：公債をこのまま出し続けていいのかと言って橋本総理は選挙に負けたが、少子高齢化の時代にそれではどうするのか。

仙谷：女性の問題が一番難しい。年金の問題をどうするか。2600万人の主婦に働いてもらうのかどうか。このままでは2025年には10人の労働人口で8人の高齢者を扶養することになる。とすれば税なり保険で取る部分を多くするか給付を削る必要がある。転職、職業訓練に金を使って労働人口を増やす必要もある。

坂井：個人的意見だが、大きな変革期でどこも明確に方針を出せない。家族の変容、核分

裂の時代だがこれに対応できていない。配偶者控除が2兆円あるがこれを廃止して日本の資本である子供に使うべきだ。国は借金があるが個人は豊か。だが生活の豊かさを感じられない。エステ化社会と買替え社会になり、資産価値上がれば家もリフォームする必要がある。中古自動車の売買も増える。それに対応した税制になっていない。消費税の福祉目的税化はおかしい。年金は一種の貯蓄だ。消費ではなく所得に掛けるべきだ。掛け金を現在と同じ比率にするには20歳から69歳が労働人口である必要がある。年金は結局雇用の問題だ。

西川：公債も買う人がいるのだから日本全体が借金だらけということでもない。年金も介護も個々人の選択の自由を認める制度にすべきではないか。

◎ドイツの総合安全保障政策を学ぶ・・・団塊ネット17回勉強会案内

講師：中島 邦雄（通産省大臣官房技術審議官、元ジェットロハンブルグ次長）

東京、大阪、横浜といった大都市財政が危機的狀態に陥り、地方財政の中央頼みが一層強まりそうです。一方、日本再生の切り札とも言われる地方分権は財政や人材の壁もあってはかばかしい進展を見せていません。ところが、環境問題や医療・福祉・商業の建て直しなど地方政府が果たすべき役割は増加する一方です。

ドイツは連邦国家であり、元々地方政府の権限は大きい。従ってそのまま日本の参考にするのは難しい。しかし安全かつ安心・安定した生活の確保という政府の機能の多くを地方政府が担い、さらに産業政策、環境政策を通じ地方における総合安全保障を実現しているドイツから学べきものは少なくありません。

ヨーロッパ社民党政権の行方、とくにドイツの新政権の動きをレポートして産業政策、技術政策の観点からドイツを眺めてきた中島審議官は、商業政策をヨーロッパ型へ転換するのに力を発揮した人物でもあり、その体験的ドイツ地方政府論は日本にとって大いに参考になるかと思えます。団塊世代の会員に限らず、興味のある方は参加して下さい。

* 3月18日PM6時半より（6時開場）、会費3千円（軽食つき）、会場は神田の学士会館。終了後講師を囲んで懇親会あり。問い合わせ、申し込みは干場まで（☎03-5689-8182 FAX03-3818-1219）。

◎異文化体験の愉しみ

12月19日（土）に三鷹寮で行われた「東大三鷹国際学生宿舍留学生と三鷹市民との交流の集い」のシンポジウムの要旨を報告します。

* ジャン・プレゲンス（三鷹国際交流協会理事、ルーテル学院大学助教授）

4歳から15歳はフィリピンで過ごしました。小学校で米人教師がフィリピンの子に質問しても答えず、しつこく聞かれると泣いた。アジアでは沈黙は黄金だが、アメリカでは沈黙に罪悪感を覚える、何か問題があると考え。教師になって自分が日本で英語を教える時に女の子に質問すると隣に聞く。無視された感じがする。しかし、違うやり方、考え方があると考えると面白い。

* 藤原武平太（シャープ㈱専務東京支社長、S34年入寮、元通産省、ブルガリア大使）

68年にエール大学大学院に留学し管理工学、つまり「人をいかにうまく使うか、いかに儲けるか」を勉強する。これが学問となることを不思議に思う。最初、3時間の議論の間沈黙せざるを得ずつらい思いをした。アメリカの様な流動性の高い社会では“silence

is gold”（難しいから）だが、日本の「沈黙は金」とは違う。

*杉本洋平（三鷹宿舎生、前宿舎自治会委員長、教養学科科学史科学哲学分科4年）

1年休学して中国、モンゴル、チベット、ネパール、インドとアジアを半年転々とする。宿舎OBのモンゴル人留学生に紹介してもらいモンゴルでは3ヶ月ホームステイした。草原と放牧の一般的イメージを持って行ったが、司馬遼太郎なんか描くのは一面的で、大草原は本当に何もなくて苦痛で仕方ない。日本人は満天の星がきれいだろうと思うがモンゴル人は誰も星を見たりしない。朝早いので夜更かしは不健康なことです。夏でも夜は寒く下手をすると死ぬし、狼も出る。望遠鏡で星を見ていると不思議がられる。都会のマンションの地下では子供がセガサターンやプレイステーションで遊んでいる。草原で馬に乗ってばかりいる訳ではない。時間の流れがゆっくりしてそれが一番大事に思えるが、あり過ぎて困る。考えなくなる。又、耕地が少なく食物が少ないので分け合って食べる。モンゴル人留学生のアドバイスで菓子沢山を沢山持って行ってこっそり食べたが、みつかって分配させられました。

*ムスティエール ピエール（三鷹宿舎生、工学部研究生、フランスから留学）

複雑系を研究しています。教科書で日本を勉強して来たが違う。きれいな言葉を使うと思っていたが汚い言葉を使う。留学生に親切にすると留学生は日本に慣れません。普通に扱うべきです。中央線を使うが電車が混み過ぎます。西荻に着くまで死にそうな感じになった。フランスではベッドから教室まで3分。本郷まで1時間以上。三鷹国際学生宿舎のお陰で日本語はうまくなりました。

*ルシアワナティ（三鷹宿舎生、総合文化研究科博士課程、インドネシアから留学）

言語学を勉強しています。父は日本の会社で働いていますが、日本人はやさしい。会社では英語でやっていました。日本人の子供が来て遊びたくても言葉が通じない。五輪真弓や山口百恵、塩狩峠（おしん）は知っています。インドネシアで日本の女性を見ると「おしん」と好意で呼び掛けます。日本では手をつなぐ大人がいない。握手しない、正座できない。春夏秋冬の四季があるのは好きです。初めて雪を見た時は感動しました。寒いのは駄目ですけど。並んでバスに乗り、時間を守り、済みませんと言ひ、買い物をしなくてもありがたいと言うのには感心します。

*三谷博（三鷹国際学生宿舎運営委員、教養学部教授、地域文化研究専攻・歴史学）

19世紀の日本史、明治維新を研究しています。日本史をやると却って外国との交流が多くなり、留学生や外国から声が掛かる。インドのデリーで4ヶ月暮らしたが飲み水と排泄には困りました。生水飲むな、ミネラルウォーターか清涼飲料水飲めと言われ、下宿先で煮沸して飲みました。トイレは水道の蛇口で缶に水を入れ、右手で水を掛け左手で拭う。そこでミネラルウォーターを飲まねば生きて行けない日本人は何だ？と考えた。中国、韓国からの留学生もショックだった。中国や韓国の地図が白紙（意識の中で存在しない）だった。植民地化や戦争を忘れようとしていた。それらの国から留学生が来てこれはいかんと40歳近くなって東アジアを勉強しました。留学生は学問にも強烈な影響を与えてくれるが、恵まれた留学生ばかりではない。この宿舎が支えている面もあります。

◎水洗トイレとぼっとんトイレ・・・八森-東京-北京

「異文化体験を聞く愉しみ」を味わった後、懇親会に移ったところでお前話せと先輩に言われ、OB会を代表して挨拶することに。今日のテーマに沿って何か話さなければと思

い中3の修学旅行で上京した時の水洗トイレとの初めての出会いを思い出す。確か本郷の旅館だったと思うが、トイレに入って用を足して振り返ると、別れたばかりの分身が去りがたい風情で行んでいる。初めての体験である。いつもなら深い暗闇に吸い込まれて目の前から消えている筈である。どうしよう。このまま置き去りにするのも忍びない。見れば天井に木箱があり鎖がぶら下がっている。こいつを引いてみよう。思い切り引っ張ってみる。轟音と共に分身は小さな穴に吸い込まれて行った。大きな安堵の気分が広がる。しかし、新しい不安が身をもたげて来る。今度は水の流れが止まらないではないか。慌てて鎖をもう一度引っ張ってみる。あにはからんやもう一度勢い良く水が流れ出す。こんなことではない筈だ。もう一度引っ張ってみる。又、勢い良く水が流れ出す。これはひょっとしたら壊してしまったのではないか。何度か繰り返した後で、心配になった私はそっとトイレを出て、誰もいないのを確かめるとそそくさと立ち去る。こんな話しをして、当時の故郷と東京の距離は現在の東京と北京と似たようなものだ、距離など気にせず大いに交流しようと思ってくった。

その北京に30年振りの思いが叶ってこの3月末にようやく行けそうである。三鷹寮同期の高見君が主宰し、私も「アドバイザースタッフ」の名刺を貰って資金集めなどに手を貸している「緑の地球ネットワーク」の黄土高原緑化のワーキングツアーに加えて貰う予定でいる。ウオシュレットのないところは嫌だとか、水洗トイレがなければなどと冗談を言いながら、色々事情が重なって田舎の郵便局長をする兄にも先を越されてしまったが、「異文化体験」の大見栄を切ってしまった以上、今度こそ、かの地で高見君がいうところの「地球大のトイレ」で用を足して来ようと思う。きっと窮屈な水洗トイレで気張るよりも青空の下で壮快な気分を手に入れることができるだろう。もっとも、これまでの留置場や刑務所での経験からすると、環境が変わるとストレスで暫く便意を催さなくなるので、空振りに終わる可能性もないではないが。できればそんな形の一週間分のお土産だけは持ち帰らないようにしたいものだ。

◎「砂の社会」で市場経済は可能か・・・第23回三鷹クラブ定例懇談会報告

講師：袴田茂樹青山学院大学教授

S38年に寮に入り東寮の前に鉄筋コンクリートの新寮を造った世代です。寮委員会で食事委員をやって残食に走り、広島から来た身には美味いと思った。哲学科を42年に卒業しモスクワ大学に留学した。父親が戦後シベリアに抑留され、残ってモスクワ放送に勤めていた。共産党幹部だった袴田里見は父親の兄ですが、父も戦前から左翼活動をしていました。60万の抑留者の中で共産主義運動の旗振りをし、シベリアの天皇とも呼ばれ、帰るに帰れず、政治亡命者の立場でロシアに残った。哲学で食べる当てもないのでロシア語もわからぬまま留学し、5年間モスクワで生活しました。エリーナ・ハカマダは腹違いの妹で商品交換所や経済自由党を作り、閣僚をしています。

横浜からナホトカへ船、更にハバロフスクへ汽車で、そこから飛行機でモスクワへ。汽車の食堂車では皆と飲んで仲良しになり、テーブルを片付けて踊り出す。列車長も加わってドンドン注文しドンチャン騒ぎ。乗員も加わる。堅いソ連に来てと構えていた日本人の私はびっくり。放っておくとどうにもならないのでスターリン的に「規律、規律」と言うんだと感じる。

欧米的な市民社会は「石の社会」で積み重ねるとビルや橋の安定したものになります。

日本は粘土の社会です。軟らかく自由なものも、セラミックの様に固いものもある。個人の自立（インディビジュアル）した市民社会と違いますが何となく回って行く、社会の基盤に規律感覚がある。夕方仕事終わってからでも勉強する。小淵さんでもやって行ける。強力な指導者がいなくても世の中が動いて行く。ロシアは砂の社会で、それ自体では安定しない。外から形を与えないといけない。それだけでも砂は安定しない。枠の他にセメントが必要だ。 Kommunismusがセメントの役割をして来たが今は枠もセメントもない。民主主義も契約を守るといふこともなくなり市場が成立しない。いかがわしいバザールの世界です。ソ連では“公共”とか“人のため”とか小さい時から教育されるが、日本の方がよっぽど社会主義的です。ソ連では誰がトップかで全く雰囲気が違う。トップに依拠するファクターが強い。日本では小淵でも橋本でも変わらない。中国はどうか。日本人より自己主張強いが、欧米よりインディビジュアルは強くない。

バザール経済は騙し合いで10倍吹っ掛けても平気だ。フランス福山の「信なくば立たず」によればロートラスト（低信頼）でも商業、金融は発達するが大規模生産業は発達しない、信頼レベルの低いところでは産業投資ができない。ハイリスク社会でも産業投資が可能なのは国家権力がコントロールすることが可能、つまり開発独裁か、アジア社会では地縁、血縁のプライベートなコミュニティでの信頼関係を利用するからだ。カスピ海等の石油・ガス開発等のビッグビジネスはコンソーシアム（企業連合）でリスクを分散してやる。従って中国やイスラムでは低信頼社会だからこそ友人・知人関係を重視し、裏切らない。ロシアでも中国でも有力者はプライベートな電話番号は教えない。ネムツォフ副首相が来日して「1億ドル投資する人には私個人の電話番号を教える」と言ったが、何で電話番号で1億ドル投資するのかと日本人は不思議に思う。

IMFはロシアを知らずに短期間にロシアに市場経済・民主主義を植付けようとして失敗しました。急進改革派は共産主義の重しが取れば見えざる手に導かれて予定調和的に自然に発展すると考えた。ところがとんでもない犯罪社会、いかがわしいバザール経済になってしまった。人口1億2千の日本で殺人は年に1300~1400件。1億5千のロシアで2~3万件。他に行方不明が2万人。ところがロシア人はしばらくそれに気がつかない。投機的な短期のギャンブル的投資になり生産投資に向かわない。モスクワでも立派な地下街や豪華なモスクができ、世界で一番ベンツが売れる。500や600の大型ベンツやBMWが走り回る。ロンドンの郊外で立派な別荘を買ったり、地中海で遊び回っているのもロシア人だ。そのロシア人に日本は援助しています。

国有の資産が民営化されたのは実は分捕り合戦。略奪のプロセスです。ガスや石油の資源、軍事産業を押さえた人間がとんでもない富を掴み“ニューリッチ”になった。その異常さに気がつかなかったのは実は西側も同じ様にバブル経済で投機的・病的な段階に入っていたからです。自分達も西側の最先端に入ったと思い、基本的な生産が行われない異常さ、危機に気づかない。IMFや輸銀の資金はブラックホールに消えて、西側の投機家の懐にも消えたのです。今、ロシア経済には4つの問題があります。

●ロシア経済4つの問題

- 1、生産投資が行われない。
- 2、ソ連邦崩壊で国家が機能を失い徴税能力がなく、国民の納税意識もない。ソ連は意図的に納税意識を持たせず、医療や教育を無料にした。しかし、実際には国民の働いた分を国が予め取っておいて国家と共産党に恩義を感じさせようとした。

- 3、従って当然国にはお金がなく輪転機を回して札を刷る。IMFの指導の下でチェルノムイルジンは輪転機を止めインフレも治まった。しかし代わりに短期国債を発行し、100%等の超高利をつけ、銀行も産業も生産に金を回さず国債を買った。ソロスなども何十億ドルも買う。それでも資源を切り売りした金が入って来た。
- 4、しかし、資源価格の暴落で金が入らなくなり、外国の投機資金も逃げて危機に陥った。結局、バザール体質を考えずに出来合いの処方箋を押しつけた誤りの結果です。

●質問：これからロシアはどうなるのですか。

何らかの権威主義の要素（粋）が必要です。セメントは民主主義のイデオロギー、ロシア正教、 Kommunismusでも駄目で、結局ナショナリズム、それも正統的なビスマルク的な健全なナショナリズムが必要です。しかし、強権独裁・大国主義等ある種の危険な要素があるので、危険な方向へ行かない様に国際的な枠組みを作る必要があります。膨大な核兵器を持っているのですから、普通の国になるための支援が人類全体の安全、危機管理のために必要です。

◎「黄土高原緑化と奥中国事情」・・・第24回三鷹クラブ定例懇談会

講師：高見邦雄（S41年入寮、36期委員長、「緑の地球ネットワーク」事務局長）

大阪で三回目の定例懇談会はかつて緑豊かな北魏の都として栄え、今は「10年のうち9年旱魃」、一人当たり平均年間所得五百元（八千円）以下の地区の多い中国最貧の半砂漠と化した山西省大同周辺の黄土高原に、「愚公山を移す」如くに木を植え続け、今、内陸中国を一番知る男、高見邦雄「緑の地球ネットワーク」事務局長に「黄土高原緑化と奥中国事情」について話していただきます。

緑の地球ネットワークは文明の最先進地と高見君が呼ぶ黄土高原（環境をないがしろにする人類の未来形）で1992年から緑化協力を開始し、地元の人と98年3月までに2,560haに705万本の木を植え、36個所の小学校に付属果樹園を作り、井戸を掘り、学校、種苗園、植物園を作る等、「環境破壊と貧困」の悪循環を食止める運動を展開しています。

かつて高見君と霞ヶ関を走り回り、有富東海郵政局長（S43年入寮）、小島環境庁官房総務課長（S42年入寮）、小畑農水省審議官（S42年入寮）など三鷹クラブネットワークの助力で国際ボランティア預金、地球環境基金、緑の基金等の助成も受け広がる緑の地球ネットワークですが、昨秋、江沢民中国共産党主席来日の際に経団連の肝煎りで作られた「日中植林フォーラム」準備会で王子製紙社長、経団連会長、林野庁長官、外務省経済局長等と並び挨拶する高見君の姿がありました。日中協力、CO2排出規制等の懸案を抱える経済界、官界をも動かし、山も動き始めた感がします。

尚、次回は5月14日（金）にニッポン放送の川内通康社長（S30年入寮）に通信との融合が進み、大変革の只中にあるメディアのこれからについて話して頂きます。

●日時：3月16日（火）PM6時開場、6時半開会、二次会あり。場所：JR弥生会館（北区芝田2-4-53 ☎066-373-1841 宿泊可）。会費：5,000円（食事代含む）申込先：干場革治（☎03-5689-8182 FAX03-3818-1219）

◎最後に

文中のシンポジウムなどの報告は私のメモを起こしたもので正確を欠くところもあります。文責は全て私にあります。